

B 個別学習 (B 3)

主な学習活動

絵を並び替えたり、大きさを揃えたりする活動を通して、整理の仕方を考える。

1 本時のねらい

ものの個数について、1個分の大きさを揃えて種類ごとに図に表したり、それらを読み取ったりすることができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

電子黒板

授業支援

ドリル

3 参考にしてほしいポイント

授業支援アプリ「ミライシード」の提出・発表機能「オクリンク」を使い、散らばっている動物の絵の大きさを揃えて並び替えることで、分かりやすい整理の仕方を考える。図を電子黒板に映すことで、児童の考えを表現・共有することができる。

段階場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	散らばっている動物の絵の大きさを揃えて並び替え、数の整理の仕方を考える。	(タブレット) ミライシードのオクリンクを使い、動物の絵の大きさを揃えて並び替える活動を行いやすくする。 (電子黒板) ミライシードのオクリンクのライブモニタリング機能を使い、全員の考えを常に見えるようにしておき、自分と友達の考えを比較しやすくする。

タブレット

+

電子黒板



ライブモニタリング



適用問題にも挑戦!



はしをそろえて、ならべてみよう。

あれ、ぼくの考えと同じだ!

4 活用効果

児童がタブレットを使って動物の絵の大小を変えて整理したことで、はしを揃えて並べることや、大きさを揃えて並べることが分かりやすい整理の仕方であることを理解することができた。

ICTを活用することで、絵を動かす、大きさを変える、考えを書き込む等の活動が視覚的に容易になり、思考する時間や考えを表現する時間を多く確保することができた。

5 アドバイザーからのコメント

整理することも、大きさを変えるとか端を揃えるとか、いろいろな視点があることがわかります。それを簡単に手で操作できることが、このアプリの特徴です。それは子どもが自分の頭の中を整理していくことと同じです。研究では、この動作化の活動が脳を活性化するといっています。(東京工業大学 赤堀侃司)

リアルタイムでの共有は即時的なフィードバックがあるため、様々な段階の児童に対して考えを深めるなど、支援する効果が期待できそうです。より上の学年においては、共同編集のドキュメントやスライドなどを用いることでも同様の効果が期待できそうです。(福島大学 平中宏典)